

専大校友を訪ねて



箱根町長に就任

勝俣 浩行さん (昭53商)

約6年間、箱根町の副町長を務め、2020年11月に町長に就任した。「少子高齢化への対応と箱根ブランドのさらなる向上が課題。町民の生活と事業者の経営を支えつつ教育や観光の充実を図り、今以上に子育て世代が安心して産み育てられる町にしたい」と、箱根の未来図を描く。

「変化に富む自然が凝縮されているところが素晴らしい」と町の魅力を語る勝俣さんは生まれも育ちも箱根。大学時代は、強羅に程近い宮城野地区の自宅から毎日2時間以上かけて生田キャンパスまで通った。入学したのは、日本が変動相場制に移行して間もない頃で、おのずと為替や貿易に興味を持ち、授業を通じて理解を深めた。

卒業後は箱根町役場に入庁。町民税の課税や申告相談業務に携わった後、地域の出張所で住民窓口を担当、青年団活動にも積極的に参加した。

「住民との交流を通じて、地域密着の姿勢が身についた。その後、人事・財政・企画などさまざまな業務に従事するなか

さらなる発展へ 未来図を描く

か、一貫して住民目線の仕事ができた」と語る。学校統合に携わった経験も忘れがたいという。箱根町に当時八つあった小中学校を四つに統合することにになり、担当の勝俣さんは住民の理解を得るために箱根全山をくまなく歩き説明してまわった。住民の反対意見は根強く、行く先々で厳しい非難にさらされたが、「子どもたちへの教育の質を担保するため」という強い信念を持ってやり遂げた。「あれから十数年がたち、成人した当時の小中学生から『統合によって友達がたくさんできた』などの声を聞いたときは本当にうれしかった」と笑顔で振り返る。

公務員として一番の財産は「仕事を通じて多くの住民と心を開いて対話できたこと」と話す勝俣さん。将来公務員を目指す学生には「日ごろから人の話を傾けることを心がけてほしい。併せて、民法の知識と法律的な物の見方を身につけておく」と役立つとアドバイスする。また、7年ぶりに箱根駅伝本戦出場を決めた陸上競技部にも「みんなで力を合わせ、上位で箱根の山に入ってきてほしい」と大きな期待を寄せる。「往路優勝校にトロフィーを授与するのは箱根町長の役目。私の任期中に優勝してくれたいことを楽しみにしている」と顔をほころばせた。

育友会就職懇談会

最新動向を解説

育友会(新澤千佳子会長)が主催する就職懇談会が10月31日、オンラインで行われた。

内定を得ている4年次生によるパネルディスカッションでは、渡邊匠さん(法)、本間彩楓さん(経営)、永野由結さん(商)、又吉祐仁さん(文)が経験を伝えた。

コロナ禍での就職活動について本間さんと又吉さんは「説明会や面接がオンラインになったことで移動の負担がなくなり、いろいろな企業に参加することができた」と肯定的。一方、地方上級公務員試験に合格した渡

邊さんは「自宅学習では周囲の様子が分からず、不安になった」と当時の気持ちを吐露した。

続いてキャリア形成支援課の岩瀬文人課長が「売り手市場が終息し、採用の冷え込みが見られる」と解説した。

オンラインで行われたパネルディスカッション



オンラインで行われたパネルディスカッション

新澤会長は「オンラインでの採用が一気に進み就職活動の状況が大きく変わった。この懇談会で話を役立ててほしい」と語った。

同懇談会は、育友会ホームページでアーカイブ配信。

地方での就職やインターンシップを考えた他の大学の学生計184人が参加した。

このうち静岡県では、県が運営する静岡U・I就職サポートセンターのカウンターが、U・I就職のメリットや、県内企業情報の集め方を解説した。

「4年次生へ」就職活動継続中の皆さん、キャリア形成支援課を利用したことはありますか? キャリア形成支援課に

「実家でくらす、地元で働く」

U・I・Jターン合同説明会

地方での就職やインターンシップを考えた他の大学の学生計184人が参加した。

このうち静岡県では、県が運営する静岡U・I就職サポートセンターのカウンターが、U・I就職のメリットや、県内企業情報の集め方を解説した。

「4年次生へ」就職活動継続中の皆さん、キャリア形成支援課を利用したことはありますか? キャリア形成支援課に

就職日より

「4年次生へ」就職活動継続中の皆さん、キャリア形成支援課を利用したことはありますか? キャリア形成支援課に

地方での就職やインターンシップを考えた他の大学の学生計184人が参加した。

このうち静岡県では、県が運営する静岡U・I就職サポートセンターのカウンターが、U・I就職のメリットや、県内企業情報の集め方を解説した。

「4年次生へ」就職活動継続中の皆さん、キャリア形成支援課を利用したことはありますか? キャリア形成支援課に

新型コロナ禍で



新型コロナの影響で、さやかなものとなり、卒業生にとっては一生に一度の儀式であるのに、十分に祝うことができない、無念極まりないシーズンであった。知識・思考は、自らの人生を豊かにするためにある。ただ、今、必要で大切である。

新型コロナ禍という制約条件の下で、この時代を充実した時間にする企画は、資金はないが時間を作れる学生ならではの特権だ。止まない雨も明けない夜もない。現状・未来、そして人生を豊かにするために、知恵を絞る時間を作って実行してみたいかがかな!

(学生部委員・本田竜広)

選挙結果

▽箱根町長(神奈川県)選挙(10月25日投票) 勝俣浩行氏(かつまた・ひろゆき||昭53商)初

兼城氏に感謝状

多額寄付

学校法人専修大学の「専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金」に多額の寄付をいただいた兼城賢光氏(昭39経商)に、日高義博理事長が感謝状を贈った。



兼城氏(右)と日高理事長

20年度秋の叙勲・褒章

◇旭日単光章 横山一晴氏(昭33経商) 調停委員功績

◇藍綬褒章 本多守氏(昭47法・福島)

専修人の新しい本

パブル

山口ミルコ著

元敏腕編集者の山口ミルコさん(昭63文)が、出版界での日々をつづった自伝的作品である。新卒で入った外資系金融機関を早々に退社し、大手出版会社に転職。そこで名物編集長「ボス」のもと仕事のエッセンスを学び、いくつものベストセラーを世に送り出す。そうした自

野球部 佐藤真投手に

千葉ロッテが指名あいさつ

プロ野球ドラフト会議(経営4)が11月16日、千葉ロッテマリーンズ球団関係者から指名あいさつを受けた。球団関係者3人が神田キャンパスを訪ね、日高義博理事長、野球部長、野球場でも多く、素晴らしい環境で野球に打ち込むことができたと、4年間を過ごした伊勢原市での思い出を振り返った。



千葉ロッテ・井口資仁監督からのサイン色紙とボールを手に笑顔の佐藤投手

伊勢原市長を訪問

11月30日には伊勢原市役所で、高山松太郎市長を表彰訪問した。高山市長が「伊勢原で過ごした選手が、プロの世界に進むのはうれしい。活躍を期待している」と話す

佐藤投手は指名に感謝し、「育成からのスタートなので、やることをしっかりとやり、一歩ずつはい上がっていききたい」と力強く語った。

伊勢原市長を訪問した。高山市長が「伊勢原で過ごした選手が、プロの世界に進むのはうれしい。活躍を期待している」と話す。佐藤投手は「自然が多く、素晴らしい環境で野球に打ち込むことができたと、4年間を過ごした伊勢原市での思い出を振り返った。」